

Conserve The Beautiful and Sustainable Sea

BLUE FLAG

ビーチ・マリーナ・観光用ボートの国際環境認証

2016

FOR THE
BLUE EARTH

海を守り、未来をつくる。



ブルーフラッグサポートガイド

2023

blueflag for the blue earth

世界が認める 安全で美しい海へ



ブルーフラッグとは

ビーチやマリーナ等の持続可能な発展の仕組み

ブルーフラッグとは、国際NGO FEE（国際環境教育基金）が実施するビーチ・マリーナ・観光用ボートを対象とした世界で最も歴史ある国際環境認証制度です。認証基準を達成すると取得でき、毎年の審査を通じて、ビーチやマリーナ等における持続可能な発展を目指しています。

ブルーフラッグは1985年にフランスで誕生し、2023年5月現在、世界51か国、5,036か所が取得しています。特にヨーロッパでの認知度は高く、ブルーフラッグビーチは「きれいで安全で誰もが楽しめる優しいビーチ」として、多くの人々がバカンスに訪れます。

ブルーフラッグを取得するためには地元自治体やビーチ、マリーナ・観光用ボートの管理・運営者等が中心となり、厳しい基準を達成することが求められます。

多くの基準設定にもかかわらず世界中でブルーフラッグの掲揚が増えています。これはブルーフラッグを取得する過程で周辺地域の関係者が関与することにより、地域の経済的側面と環境的側面を両立させる持続可能な発展につながると高く評価された結果だと言えます。



BLUE FLAG MAP ※2023年5月現在



ブルーフラッグの認証基準

SDGs すべてに関連するブルーフラッグ

ブルーフラッグ認証プログラムは、SDGsの17ゴールのすべてに関連しており、FEEでは、UNEP（国連環境計画）やUNWTO（国連世界観光機関）等との連携のもと、世界各国においてこのプログラムを推進しています。

ビーチでは4分野（水質、環境マネジメント、環境教育と情報、安全性とサービス）33項目、マリナーでは6分野37項目、観光ボートでは5分野51項目の認証基準があり、毎年審査を受けて更新する必要があります。

基準を満たしたビーチ・マリナー・観光用ボートは国際基準の証である旗を掲げることができます。詳細な認証基準は日本ブルーフラッグ協会ホームページをご覧ください。

環境教育と
情報

- *ビーチ利用者等への環境教育
- *環境問題に関する情報の掲示
- *ビーチ関連施設の地図の掲示など

水質

- *水質測定の種類と基準
- *下水等の排水のビーチへの影響
- *大腸菌、腸球菌の測定指標など

環境
マネジメント

- *ビーチの清掃管理
- *生態系の保護
- *ごみの分別、リサイクルなど

安全と
サービス

- *ビーチ利用者への安全管理
- *救急設備の設置
- *バリアフリーの整備など

※ビーチの認証基準を抜粋

認証
プロセス

STEP
1

国内運営組織
に申請（11月）

STEP
2

国内審査委員会
による審査（1月）

STEP
3

国際審査委員会
による審査（4月）

STEP
4

ブルーフラッグ
認証取得（5月）

ちょっと海行こうよ、と人が集う。
同じ時間を過ごす海はみんなの特別な場所。
ブルーフラッグの旗のもと、
たくさんの笑顔が集まり、新たな価値が生まれる。
人と海との繋がりが豊かな環境を育む。

この海が、きっと好きになる。このまちに訪れたいくなる。



福井県高浜町「若狭和田ビーチ」

国内ブルーフラッグ認証後の声



鎌倉市長 松尾崇

ブルーフラッグ取得を通して、市民・企業・行政が連携し、由比ガ浜海水浴場における環境教育、環境保全、安全対策の取組が進みました。特に県と連携したバリアフリービーチの推進は大きな成果となりました。



高浜町長 野瀬豊

アジア初のブルーフラッグを取得したことで、若狭和田ビーチの取組が国内外から注目されるようになりました。高浜のブランド価値の向上、インバウンドを含めた観光振興や移住定住の促進による地域活性化が期待できます。



株式会社リビエラリゾート代表取締役社長 小林昭雄

リビエラ逗子マリーナは、安全性や快適性が評価され、マリーナとしてアジア初のブルーフラッグに認証されました。今後も世界レベルのマリーナとして、環境保全や環境教育、持続可能なまちづくりへ貢献していきます。

海外のブルーフラッグビーチ



※写真はイメージです

【フランス】
ニース

Blue Beach



※写真はイメージです

【タヒチ】
ボラボラ島

Plage Hôtel
Sofitel Marara



※写真はイメージです

【イタリア】
マルタ島

Mellieha Bay

ブルーフラッグの意義・目的

きれいな海

海の環境汚染



- ・漂着ゴミ、不法投棄
- ・海洋プラスチック問題
- ・海、河川の水質、生態系への悪影響

水難事故・治安問題



- ・安全管理体制の不備
- ・救急・救助備品の不足
- ・ゾーニング問題
- ・水難事故、トラブルの発生

経済活性化

地域経済の衰退



- ・海水浴客、観光客の減少
- ・少子高齢化、過疎化、人口減少
- ・飲食店、宿泊施設の減少

障がい者・外国人への対応不足



- ・障がい者用バリアフリー施設の未整備
- ・機材の未整備
- ・外国人向け多言語対応案内の未整備

持続可能なまち

海離れ・地元離れ



- ・レジャーの多様化
- ・海の体験不足による若者の海離れ
- ・災害による海への恐れ
- ・都市部への憧れ

地域コミュニティの衰退



- ・地元愛の希薄化
- ・自治会加入率の低下
- ・沿岸地域の祭りなどの減少
- ・伝統文化の継承問題

海岸の課題（取得前）

ブルーフラッグの基準をクリアすると

キレイな海



- ・海、川、街の環境改善
- ・ゴミの分別、リサイクル
- ・適切な排水処理
- ・生態系保護

安心・安全な海



- ・ライフセーバーによる安全管理体制強化
- ・救急・救助備品の整備
- ・警備強化
- ・利用ルールの策定

地域経済の活性化



- ・地域ブランドの確立
- ・マリンレジャーの活性化
- ・海水浴客、観光客の増加
- ・移住、定住促進

誰でも利用できる海



- ・バリアフリーのアクセスと施設の整備
- ・多言語案内
- ・ユニバーサルビーチの実現
- ・通年観光の推進

郷土愛の醸成



- ・子供たちのマリンスポーツ体験
- ・海的环境教育
- ・防災教育
- ・若者の地元定着促進

持続可能なまち



- ・行政、企業、NPO、市民の連携
- ・環境活動への市民参画
- ・地域コミュニティ活性化
- ・伝統文化の継承

期待される効果（取得後）

取得の
メリット

- 1 公式 FEE global サイトへの登録
- 2 ブルーフラッグ認定証の授与 / ブルーフラッグ旗の掲揚
- 3 SDGs 17ゴールへの貢献
- 4 BLUL FLAG Japan サミットへの出席
- 5 ブルーフラッグロゴの使用（プロモーション・商品開発）

ブルーフラッグマップ

※2023年6月現在

2016.4 福井県高浜町
「若狭和田ビーチ」



2019.4 兵庫県神戸市
「須磨海水浴場」



2021.4 神奈川県藤沢市
「片瀬西浜・鶴沼海水浴場」



2016.4 神奈川県鎌倉市
「由比ガ浜海水浴場」



2023.6 宮城県七ヶ浜町
「菖蒲田海水浴場」



2023.6 宮城県南三陸町
「サンオーレそではま海水浴場」



2019.4 千葉県山武市
「本須賀海水浴場」



2023.5 千葉県勝浦市
「興津海水浴場」



2022.4 神奈川県逗子市
「リビエラ逗子マリーナ」



2022.4 神奈川県逗子市
「逗子海水浴場」



各地域の取得事例は日本ブルーフラッグ協会のHPを参照してください。

日本ブルーフラッグ協会について

日本ブルーフラッグ協会は、ブルーフラッグ取得支援を専門とする日本で唯一の団体です。当協会では、日本のブルーフラッグ国内運営組織である一般社団法人JARTAと連携し、ブルーフラッグの取得支援及び普及促進を通じて、海辺からのSDGsの実現に貢献するとともに、日本の海の豊かさを守り、持続可能な社会の発展に寄与していきます。

/// 事業内容 ///

- 01 ブルーフラッグに関する情報提供・相談事業
- 02 ブルーフラッグに関する調査・取得支援事業
- 03 ブルーフラッグに関する環境教育事業
- 04 ブルーフラッグに関する研修・人材育成事業
- 05 ブルーフラッグに関するイベント事業
- 06 ブルーフラッグに関する普及啓発・情報発信事業

< 具体的なサポート事例 >

- ①ブルーフラッグの先進事例の情報提供、②勉強会・説明会の開催
- ③認証基準の事前調査、④水質調査・安全リスク調査・バリアフリー調査
- ⑤関係者の合意形成支援、⑥申請書作成、⑦環境教育、⑧広報活動



< お問い合わせ >

一般社団法人 日本ブルーフラッグ協会
代表理事 片山清宏
(総務省地域力創造アドバイザー)

〒251-0027

神奈川県藤沢市鶴沼桜が岡3-9-29

tel 090-9017-2459

mail info@blueflag-japan.org

HP https://blueflag-japan.org



一般社団法人
日本ブルーフラッグ協会
JAPAN BLUE FLAG ASSOCIATION

< 監修 > 文教大学国際学部 教授 海津ゆりえ
< 制作協力 > ブルーフラッグアカデミー